

# 稲作情報

Vol. 7 平成 26 年 9 月 5 日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部  
 問い合わせ先：本吉農業改良普及センター  
 TEL：0226-29-6044  
 ホームページ：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/motoyosinoukai.html>



## 刈取り適期は、9月中旬頃になる見込み

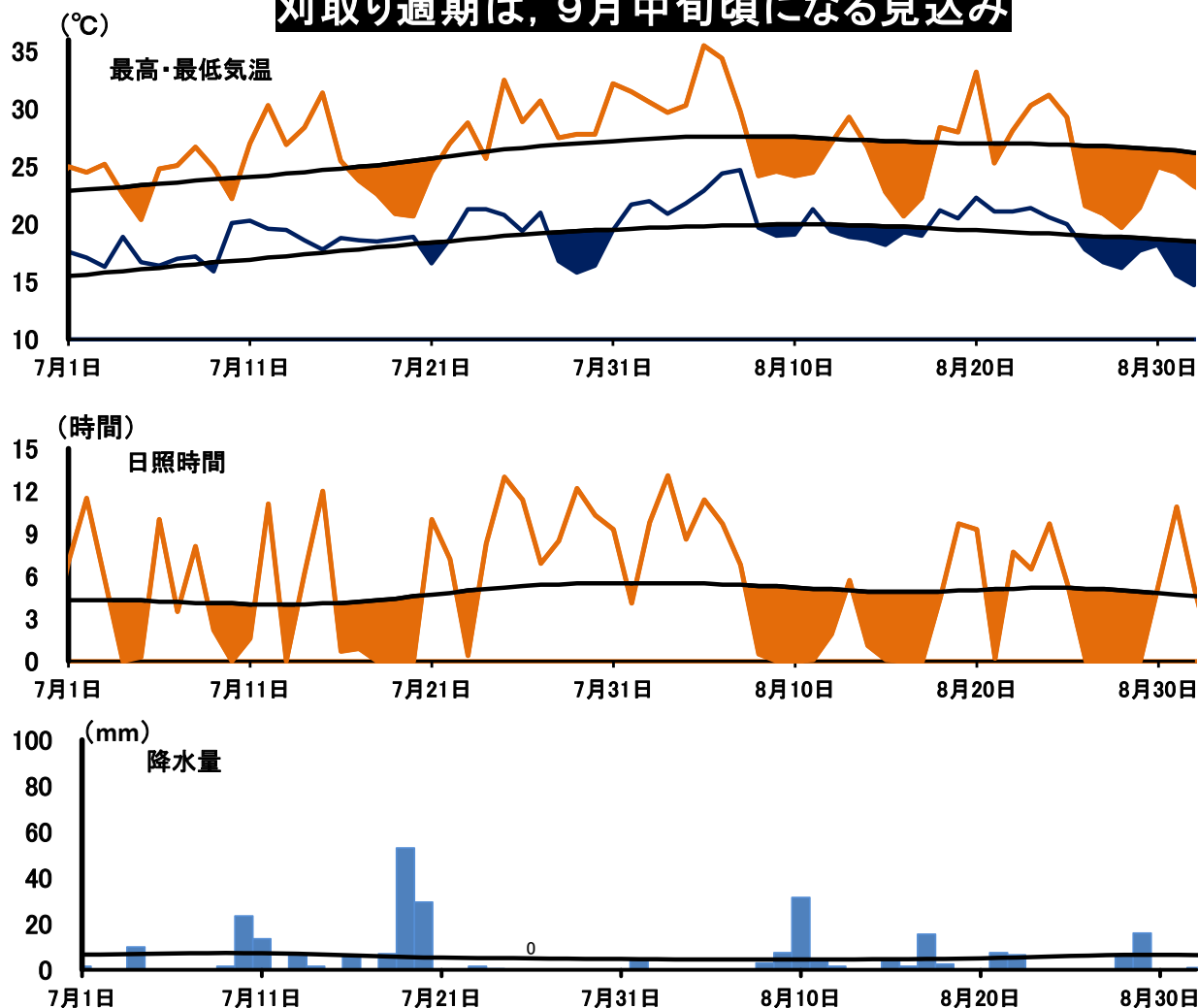


図1 気象経過図(気仙沼アメダス:7/1~9/2)

### 8月の気象経過

### 8月10日に台風通過、第3半旬は多雨少照

- 気 温：第1半旬は平年を大きく上回る。第3, 6半旬は平年を下回る。
- 日照時間：第1半旬は平年を大きく上回る。第3, 6半旬は平年を大きく下回る。
- 降 水 量：台風の影響で第2半旬は平年の約2倍。その他は少雨傾向。

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	比	H26	平年	比
8月1半旬	25.9	23.0	2.9	31.5	27.5	4.0	21.9	19.7	2.1	47.0	27.5	171%	5.0	22.7	22%
8月2半旬	23.6	23.2	0.4	27.4	27.6	-0.2	21.4	19.9	1.4	17.0	26.6	64%	42.0	22.5	187%
8月3半旬	22.1	23.1	-1.0	26.1	27.3	-1.3	19.3	19.9	-0.6	8.9	25.0	36%	9.0	22.7	40%
8月4半旬	22.9	22.8	0.1	26.5	27.1	-0.6	20.5	19.6	0.8	23.5	24.7	95%	19.5	24.0	81%
8月5半旬	23.9	22.6	1.3	28.8	27.0	1.9	20.8	19.2	1.6	29.5	25.8	114%	14.0	28.0	50%
8月6半旬	19.4	22.2	-2.9	22.2	26.6	-4.5	17.0	18.8	-1.8	16.3	29.6	55%	22.5	38.6	58%

## 生育状況

## 出穂期以降の少照傾向により登熟は緩慢

8月上旬までは高温により生育は進み、管内の平均出穂期は平年より5日早い8月5日でした。

表2 管内の出穂状況

	出穂始期	出穂期	穂揃期
平成26年	8月2日	8月5日	8月9日
前年	8月8日	8月11日	8月15日
平年	8月7日	8月10日	8月14日
前年差	-6日	-6日	-6日
平年差	-5日	-5日	-5日

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、それぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%が出穂した日  
平年は前5カ年の平均値

生育調査ほの出穂後25日調査では、調査地点による㎡当たり籾数の差はみられますが、沈下粒数歩合は平年より低く、登熟の進みは緩慢です。出穂後の8月中旬が少照で経過したためと思われます。

表3 出穂後25日調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		出穂期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	1穂籾数 (粒)	㎡籾数 (百粒)	沈下粒数 歩合 (%)	主稈 葉数 (枚)	止葉 葉色 (SPAD値)
生育調査ほ	平成26年	8月6日	79.2	18.6	568	58.9	335	79.4	12.1	31.3
	前年	8月11日	74.8	18.1	453	56.0	254	94.9	12.0	25.8
	平年	8月7日	76.6	17.5	509	56.2	278	92.9	12.4	26.3
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月13日)	前年差(比)	-5日	106%	103%	125%	105%	132%	-15.5	0.1	121%
	平年差(比)	-1日	103%	106%	112%	105%	121%	-13.5	-0.3	119%
生育調査ほ	平成26年	8月2日	74.7	17.9	409	70.9	290	83.7	12.2	27.0
	前年	8月9日	76.8	19.2	442	69.2	306	90.6	12.2	24.1
	平年	8月6日	74.4	17.5	406	68.6	278	88.5	13.2	24.7
南三陸町入谷 ササニシキ (5月16日)	前年差(比)	-7日	97%	93%	93%	102%	95%	-6.9	0.0	112%
	平年差(比)	-4日	100%	102%	101%	103%	104%	-4.8	-1.0	109%

注：平年値は過去5カ年(平21～25年)の平均値

また、東北農政局が8月27日に発表した8月15日現在における作柄概況によると、宮城県東部の作柄は「やや良」で、穂数は「やや少ない」、1穂当たり籾数は「やや多い」、全籾数は「やや多い」、登熟の良否は「やや良」となっています。

表4 平成26年産水稲の8月15日現在の作柄概況(東北農政局発表)

	作柄の良否	穂数の多少	1穂当たり 籾数の多少	全籾数の 多少	登熟の良否
宮城県	やや良	やや多い	平年並み	多い	平年並み
東部	やや良	やや少ない	やや多い	やや多い	やや良

## 病害虫発生状況

## 台風の影響で褐変穂が散見される

8月8、9日頃に出穂したほ場を中心に、籾が茶色く着色した褐変穂が散見されました。これは、まだ出穂したばかりで籾殻が柔らかいときに、8月10日に通過した台風による強風で揉まれて籾に傷が付き、そこへ雑菌が入ったため着色したと推測されます。台風通過後の8月第3半旬が湿度の高い天候条件で経過したことも、褐変穂となるプラスの要因として働いたと思われます。

また、そのような天候から、穂いもちも一部のほ場で散見されています。



## 刈取り適期の判定

## 刈り遅れに注意！

刈取り時期が早すぎると青米や未熟粒が多くなり収量が低下するとともに、収穫機械や乾燥機の能率が悪くなります。また、刈取り時期が遅すぎると着色粒や胴割れ粒の割合が増加し、高温多湿条件下では穂発芽等の被害粒が発生します。

そこで、良質米に仕上げるための刈取適期の目安と収穫・乾燥作業について、そのポイントを紹介します。

### ① 籾の熟色と穂軸の色

籾の80～90%程度が成熟して黄色となり、穂軸が先端から3分の1程度まで黄変していれば、刈取り適期に達したと判断できます。

**すべての籾が黄色になるまで待つと、刈遅れとなり玄米品質が低下するので、穂の下部にわずかに緑色の籾が残っている程度でも刈取りを開始してください。**



図2 刈取り適期の熟色

### ② 出穂後の日数による目安

主要品種の出穂後の日数による刈取り適期の目安は、表5のとおりです。

表5 出穂後の日数による刈取り適期の目安

出穂後日数	品種名
40～45日	ヒメノモチ ひとめぼれ まなむすめ
45～50日	ササニシキ みやこがねもち

### ③ 出穂後の積算気温による目安

出穂期以降の平均気温を積算して予測する場合、「ひとめぼれ」では940℃に達すると収穫が可能となります。概ね1,000℃前後で品質が最も高くなり、以後品質は低下していきます。

### ④ 今年の刈取り適期

積算平均気温からみた刈取り適期予測は、表6のとおりです。8月5日に出穂したほ場の場合、9月17日より刈取りが可能と予測されます。刈取り始期から終期までは7～10日間程度ありますが、計画的に作業を行い刈遅れにならないようにしましょう。

表6 出穂後の積算気温からみた刈取り適期の目安(気仙沼アメダス:9月3日現在)

	出穂後の積算気温	出穂期						
		8月1日	8月3日	8月5日	8月7日	8月9日	8月11日	8月13日
刈取り早限	940℃	9月13日	9月15日	9月17日	9月20日	9月22日	9月25日	9月28日
刈取り適期	1,000℃	9月15日	9月18日	9月21日	9月23日	9月26日	9月28日	10月1日
刈取り晚限	1,100℃	9月20日	9月23日	9月26日	9月29日	10月2日	10月5日	10月7日

※品種:ひとめぼれ 9月2日まではアメダス実測値を使用, 9月3日以降は平年値を使用して予測

※刈取り早限～刈取り晚限は、良質粒歩合75%以上を確保できる期間

## 刈取り・乾燥時の留意点

### ①刈取り作業

#### ○コンバインの場合

- ・ 籾水分が高いと籾や玄米が損傷し、また乾燥時間も多くなるので、籾水分は25%以下を目安に刈取りを行きましょう。
- ・ 収穫作業に適する時間帯は午前10時～午後4時頃です。雨上がりや朝露のある状態での刈取りは避けましょう。
- ・ 循環式乾燥機では穀温40℃、毎時乾燥減率0.8%を標準に乾燥を行きましょう。

#### ○バインダーの場合

- ・ 籾水分28%程度の比較的高い条件でも収穫が可能です。
- ・ 架掛け等の作業に時間がかかるので、その日のうちに作業が完了できるよう計画的に刈取りを行きましょう。
- ・ 自然乾燥に要する日数は概ね20日程度ですが、玄米水分15%を目標に日数を調整してください。
- ・ 秋雨が多いと穂発芽や胴割れが発生し品質が低下しやすいので、雨が多い場合は籾水分が18%程度になったら脱穀し、乾燥機で仕上げ乾燥を行ってください。

### ②乾燥・調製作業

- ・ 収穫した籾を長時間放置すると発熱して変質米の原因となるので、刈取り後は速やかに乾燥しましょう。
- ・ 倒伏した稲や未熟粒の多い稲などを機械乾燥する場合は、二段乾燥(下記を参照)を行い水分ムラや胴割米の発生を抑えましょう。
- ・ 火力乾燥における過乾燥は、胴割米の発生・砕粒の増加・光沢の低下等品質が悪くなります。こまめに籾水分の測定を行い過乾燥を防ぎましょう。

#### 高水分籾乾燥時の注意点

未熟粒や青米が多く混入していると全体の水分が高く、水分のバラツキも大きくなります。このような場合には、二段乾燥を励行するなど特段の注意が必要です。

#### ※二段乾燥

高水分籾等を乾燥する際に籾水分が18%程度になったところで火力乾燥を一旦停止し、一定時間通風乾燥して貯留します。精籾と青籾や未熟粒の水分差が貯留中に籾間移動で縮まり、20～30時間後に安定したところで二次乾燥を行います。二次乾燥終了後は、余熱により0.7%程度乾燥が進む場合があるので、それを見込んで早めに乾燥を停止してください。

## 農作業事故を防ぎましょう！

### 「1人ひとりが主役 広げよう！安全確認」

9月15日から11月30日まで、秋の農作業安全運動実施中です。  
作業中はもちろんのこと、移動中も安全第一を心がけましょう。

## 米の放射性物質検査を実施します

平成 26 年産米の安全性を確認するため、国・市町村及び生産者団体等と連携し、放射性物質の検査を実施します。

昨年との違い：地域によっては、検査点数が減りました。

## 米の出荷自粛をお願いします

旧市町村ごとの検査結果が出るまで、**米の出荷・販売・譲渡及び贈答**をしないで下さい。

○旧市町村ごとに検査を実施しますが、安全性が確認できるまで、米の出荷・販売・譲渡及び贈答をしないようにしてください。

→出荷自粛が解除されるまで、収穫した米は、旧市町村ごとに 保管してください。

○出荷自粛の解除は、検査結果に基づき、実施します。

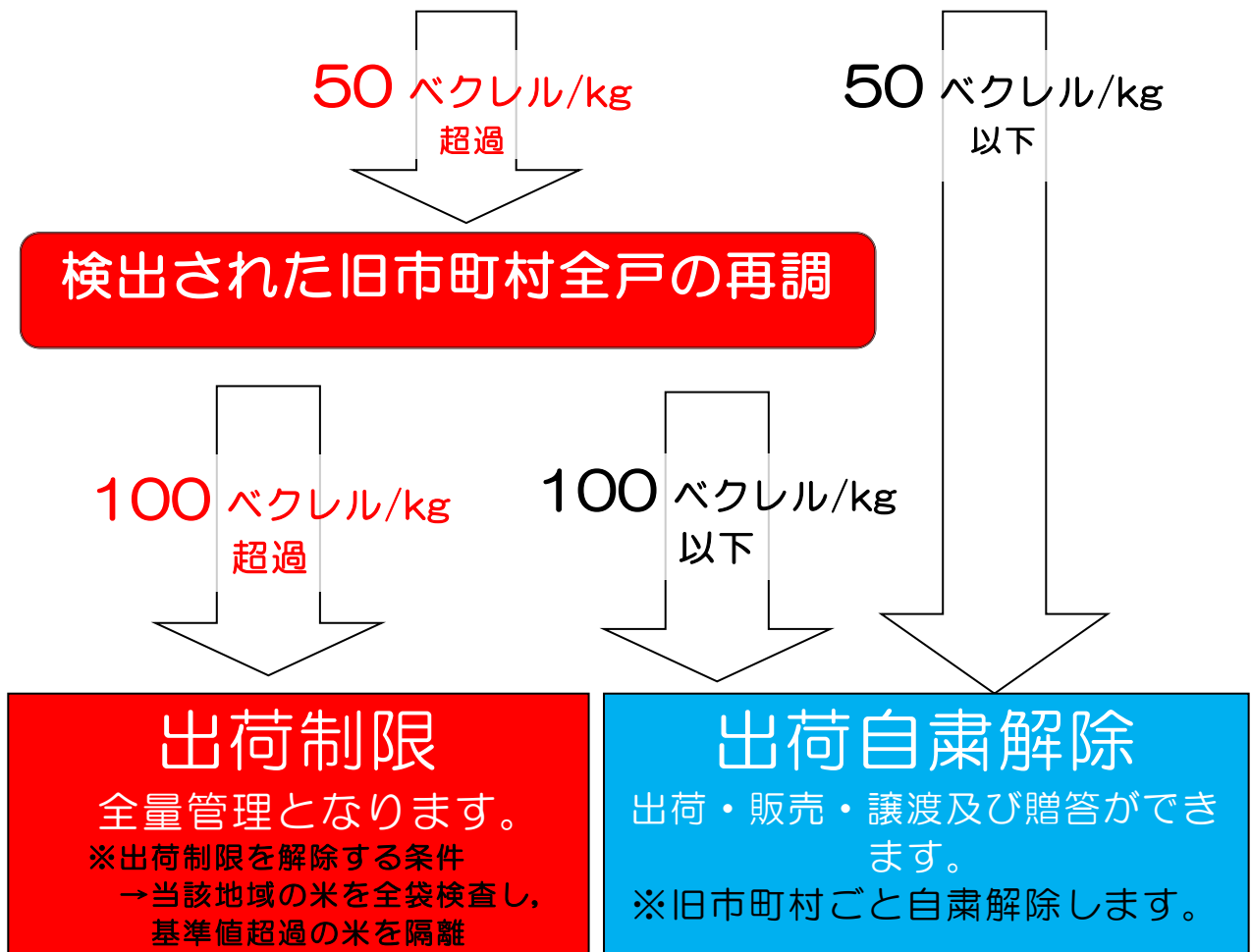
→検査結果は、県のホームページ等で公表するなど、速やかにお知らせします。

### 【米の放射性物質検査に関する問い合わせ先】

- 宮城県農産園芸環境課 022-211-2841
- 気仙沼地方振興事務所 農林振興部 24-2534  
本吉農業改良普及センター 29-6044
- 気仙沼市 産業部農林課 22-3439

# 米の放射性物質検査（収穫後の玄米）

※旧市町村によって検査点数が違います。



## 【検査の概要】

- (1) 全戸調査
  - ◇ 平成 25 年産米で全量全袋検査を行った旧市町村
    - 全戸検査
- (2) 一般検査
  - ① 平成 25 年産米で全戸検査を行った旧市町村のうち
    - イ 平成 25 年産米で 10 ベクレル/kg 超 50 ベクレル/kg 以下の放射性セシウムが検出された旧市町村
      - 1 点 / 10ha
    - ロ 平成 25 年産米で放射性セシウムが検出されなかった旧市町村
      - 1 点 / 70ha（最低 3 点）
  - ② 上記の全戸検査、一般検査①以外の旧市町村のうち
    - イ 平成 23～25 年産米で 5.0 ベクレル/kg 超の放射性セシウムが検出された旧市町村
      - 作付面積に応じた点数（旧津谷町 3 点）
    - ロ 平成 23～25 年産米で放射性セシウムが不検出又は 5.0 ベクレル/kg 以下の旧市町村
      - 1 点 / 旧市町村（旧津谷町以外）

管内は、全て一般検査②の区域です。